

海上保安学校管制課程を卒業後
運用管制官の資格を取得すると
一人前として認められます。

運用管制官の“き章”



運用管制官募集！！

～平成29年度採用試験より管制課程が新設されました～

若手運用管制官からのメッセージ

私は、高校を卒業後、海上保安学校に入学し、東京湾海上交通センターに赴任しました。運用管制官としては、2年目になります。

運用管制官は、船舶の輻輳する海域（航行船舶が多く、海難が発生しやすい海域）を主に監視し、無線や電話を通して自分の声で船舶に安全を届けています。日々責任感と緊張感を伴う仕事なので、その日の勤務を無事に終わると「ホッ」とします。また、未然に海難等を防ぐことが出来る非常にやりがいのある職場です。

日本の輸出入のうち、船舶による輸出入は約99%を占めており、運用管制官が必要とされている今、平成29年度海上保安学校採用試験より、管制課程が新設されました。「海を守りたい！管制官の道に進みたい！英語を話すグローバルな職場で輝きたい！」そんなみなさんと一緒に活躍出来る日を楽しみにしています！（20代 女性保安官）

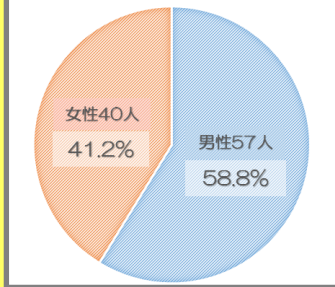
速報

平成29年度学生採用試験 『管制課程』

海上保安学校に来年度新設される『管制課程』に競争率約4.8倍にあたる97人の受験申し込みがありました。

うち女性の割合は、41.2%を占め、他の4課程に比べ、最も高率となりました。

平成29年度『管制課程』 受験申し込み人数の割合



※人事院が平成29年9月13日に公表した学生採用試験の申し込み状況です。

※詳しい受験案内につきましては、海上保安庁若しくは人事院のホームページをご確認ください。

私は、海上保安学校卒業後、東京湾海上交通センターへ赴任し、運用管制官は3年目になります。管制官は、様々な方法により事前に知り得た情報をもとに、船の乗組員の目線に立って安全な運行に必要な情報を提供し、時には心を鬼にして、間違っただ交通方法や危険な操船をしている船舶に対して注意、指導を行っています。

海上保安庁は、事件事故が起ってしまった場合には、海難救助や事件捜査等をおこないますが、その中でも管制官は、事故そのものを未然に防ぐために日々業務をこなしており、「何もないこと」こそが仕事の成果だと思っています。

広い視野と鋭い洞察力を持って海上の安全をともに守っていく仲間を募集中です！

（20代 男性保安官）

私は、海上保安学校（情報システム課程）を卒業後、運用管制官に就いて3年目になります。

東京湾に限らず、船舶交通の要所とされる伊勢湾、瀬戸内海及び関門海峡に各海上交通センターが設置されています。もし、これらの海域でひとたび大きな事故が起これば、人命や財産、環境が危険にさらされ、多くの物資や人の流れが停滞し、場合によっては自然環境にも大きな被害が及ぶ恐れがあり、多くの人々の生活にも影響してくるかもしれません。

そうならないために管制官は、無線を駆使した情報提供等により船舶運行を支援し、時には誤った交通方法や危険な操船をする船舶に対して注意、指導を行うことで海上の安全と秩序の維持に努めています。また、外国船との通信では、日本に来て初めてコンタクトを交わすのが管制官という場合もあり、いわば日本の顔となることもあります。

そんな幅広い業務、グローバルなステージで一緒に切磋琢磨できる仲間を絶賛募集中です！

（20代 男性保安官）

海上保安庁

東京湾海上交通センター

〒239-0813

神奈川県横須賀市鴨居4-1195

電話：046-842-0118



私は、専門学校を卒業後、海上保安学校に入学しました。海上保安学校を卒業後、東京湾海上交通センターに赴任し、今年で2年目となります。

赴任直後の頃は、上手くいかない事が多々ありましたが、今は情報提供を実施したあとに船の方からお礼を言われることもあり、やりがいを感じています。私は、管制官として大事なことは、船舶の衝突や乗り上げ等を回避させるために事前に情報提供を実施することだと思います。

そして、管制官の業務は大変ですが、「日本の海の安全を守りたい！」「人の役に立ちたい！」という方と一緒に海上保安庁の新たな時代を作っていけたらと思います！

（20代 男性保安官）